新入生諸君に與ふ

發行所　大阪府三島郡千里村片山　關西學院大學　新聞部
定價一部金五錢

時局と本學の使命

學長　神戸正雄

今日の時局は漸に重大である。墨蘭の武威は蹂躙され、歐に中華民國の抵戰線に於ける重要地域は全く墨軍の占領するところとなり、其處には新中央政權が成立し、蔣政權は最早駆逐の

要するし、これが政權を打破す聽しなければならぬ。

私は本學教育の方針としては時局に鑑してこの精神を徹底して學生諸君に期待するものである。諸君は在學中、愛國心を涵養し、國家のためには心身を献げて悔ゆるなきの、高き潔き心境に入るやう心掛けなければならぬ。既に諸君の心の根底において、「若き熱血の學徒」も存在し得るが、更に官立學校に對しての要望、諸君の奮起さへ確であるならば、前にいつた樞下の時局に處しては、國民は必ずや自らに立派なものであり得ると信ずる。

新入學生を迎ふる「ことば」

—特に官學志望者のために—

新聞部長　賀來俊一

學友會新聞部長としての「ことば」である。たまく兼はつた歐學部長としての「ことば」ではない。

拙ずして時局、戰時體制下に稍遡せる現代學生の心構へは、おほよそその昔の學生かたぎを阻しめない者もあるらしく、就中、中學學校を卒業したばかりの者には既ね此種の卵殻が離れ兼ね、種々是學新進の向ふ所は必ず先づ官立大學である學生の誤解に苦しからず、頑是なきかれらの選擇に於て無理もあるまい。

たゞ斯くの如くむ是學問、私學へ入學する者は勿ち、官學志望者とするに到つては、これを選ぶ者は幾多、醫師に値すべき宗嗜と共に、時局青年學徒の反省を促すべき要ありと思ふのである。

年併、因襲の久しき、これら學生を同じくるミリュウには相違ない事大風潮「立ち姿ほど大樹の陰」特たる又官僚倚存など微い觀泉から脱け切りしめない者もあるらしく、就中、中學學校を卒業したばかりの者には既ね此種の卵殻が離れ兼ね、種々是學新進の向ふ所は必ず先づ官立大學である學生の誤解に苦しからず、頑是なきかれらの選擇に於て無理もあるまい。

たゞ斯くの如くむは

讀書

那支 法理論界の回顧

◇—本と兵隊(其四)—◇

來島志郎

〔亀大學教授、同二十五年北京師範學校長となつた。(支那政治思想史)、(昭和二十五年)「中國近三百年無能史」等は最もよく人の知るところであらう。彼の支那法理思想史、國家論等は夫々岩波文庫、(一九二七年)等に收められてゐる。

彼に從へば國家の富貴繁榮は新民の道に始まるとして所謂新民學說を掲げて數千年來の支那封建社會に革命の烽を擧げた。彼が支那思想界にデビューしたのは第一に新民叢報を通じてであつたが、新民の眼目は「元來缺けた點を補ひ、これを新たにすることだ」とし、軍に政治、學藝、技術のみならず、民德、民習、民力においても歐洲各國の思想、道德を取入れ、これを支那に適應すべしと說いた彼は、支那民族の道德において最も缺けたるは公德であるとして、この公德こそ新民思想の第一原理であると主張する。

〃〃〃〃 **從つて** 公德は彼に依れば「社會を利益する」ことを德學とすべく、これを實行する最初の方策は國家思想であるとした。彼の所謂國家思想とは個人、朝廷、外部民族、更に世界に對して國家の存在を自覺することを意味してゐるが、支那人にはかゝる國家思想を缺き、世界の存在を知る能はず、自己の存在のみを主張し、自己の存在のみを知らざるのみならず、これを世界と同一に考へて來たことに因るとしたが、かゝる國家思想を備へてゐるものでなく、寧ろこれが擴充を意味する國家主義と主張した點は、明治、國家主義の一人として有名な故、國家論等は夫々人の知るところであらう。彼の支那法理思想史、國家論等は最もよく人の知るところであらう。彼の支那法理思想史、國家論等は夫々人の知るところであらう。彼の支那法理思想史、國家論等は夫々人の知るところであらう。彼の支那法理思想史、國家論等は夫々

時局認識を深め
國家精神を把握せよ
新入生に學長訓辭

輝かしき二千六百年の學部入學式は四〇〇の新進學徒を迎へて去る十九日櫻陽なごみ春風豁邁たる千里山上の體育館に於いて挙行された。この日學長先生は新入學生一同に對して熱烈の如き熱情を以て諄々と今後學生の進むべき道、學生として如何なる態度で學業を進めて行くべきかを說かれ、滿堂感銘すべき年の榮ある日を一層に意義あらしめたものであつた。以下大體の要旨を記すと

一、學問・學生たるの本分遵守——本學生となつた上は學則に從ひ、いやしくもこれに悖ることなきは勿論學部學生としての本分を守り、母校の名譽をきづつけざること

二、研究心の涵養——中等學校、高等學校、專門學校等における教育と異なり大學教育は自得せしむべきものに非ず、進んで研究し理論を尊重、確立すべき秀才も又學生と同じく研究生たるべきである

三、人格の涵冶——たゞに研究を主とする故に學校に出席せざるは、可にして、出席するといふことは教授の人格に接し、互に啐磨し、又講義に出席することは故に熱心なる態度を備ふることなる

四、國家精神の修養——時に時今の事態、國家的人物を要求する故に教育も自づから國家精神を根底として施さるべきであり、我が國家の特異性を大にせんとする人々であるから國家の指導的人材とならねばならぬ。しかして斯る人物の精神は斯利的打算的な態度を脱却した國土の精神でなければならぬ

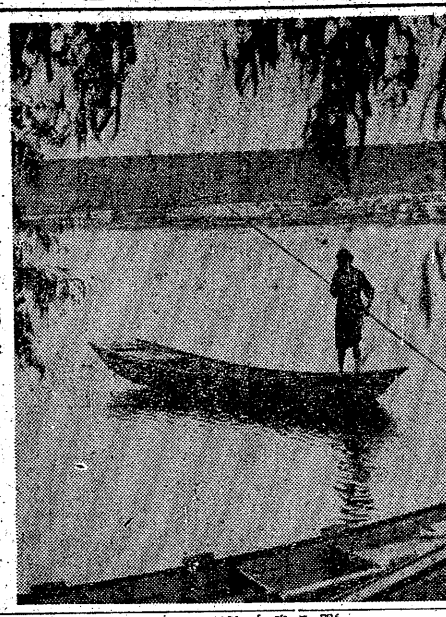
五、德力の涵養——將來の指導者たるべき者は常に健康に意をそゝぎ、中途において挫折することなきを期すべきである。特に選手陸上競技に於ける如きとがあつてはならぬ

六、人との親和、義の敬重——友人は互に相敬し相助けて行くは勿論一般の人とも互に親しむべきである

七、反省——常に人は内に省て良心を輝かしこれを崇らすことのない様に努めねばならぬ。偶ある人は常に幸福が雖り來るものであり、現實的な意味からも心掛けねばならぬとである

英靈に感謝捧げて卒業記念樹を植付

吾々學生の手に成つた吾が關西大學出征戰士の英靈に感謝して、その出征に大學に於いて、その嬉大なる姿を千里山上に顯然たる記念樹として植付式を挙行した。この日學生に対して講演が行はれ、講師の一人は、「吾々學生は、學生として眞に心からなる感謝を表してきたが、去る三月本學を卒業した諸君が本學を去るに當り記念事業として同學の正面に滞々たる月桂樹にかひづかの一對が植えつけられ、英靈に對する感謝と感意の種がかゝれると云ふべき、その記念樹の成長と共にそれは永遠に名を殘すものであろう


雨けむる玄武湖畔……杏花開京城樓を眺む

時下學生の生活を
學部生計調査に覗く
申告狀況は良好

學部生の學生はどの如きなる生活をしてゐるか？去る三月、學年試驗の最中に行はれた學部一年、二年の生計調査の統計がこの程學生課の手によつてなされた。そこで今その主なるものを擧げて各部門に渡つてその統計表をのぞいてみやう。數字は百分率）

現住所統計

	法文	經商
大阪市	三四・八	三五・〇
吹田市	二・九	一七・一
神戸市	六・六	九・六
兵庫縣	四・八	五・七
堺市	三・五	二・五
其の他尼崎市、西宮市、北河内郡、南河内郡が夫々一・八		
中河内郡が一・六、豐中市、奈良縣京都府が夫に一・四、豐能郡が一・四、布施市が〇・九、泉北郡が〇・八、泉南郡が〇・六、和歌山市と三島郡が〇・四、岸和田市、姫路市、高槻が夫々〇・二の順序になつてゐる		

卒業後の就職希望

	法文	經濟
官公廳	二〇・三	二・三
商事會社	一八・五	二九・四
教員及研究	八・一	五・六
自家營業	三・三	五・一
工業會社	一〇・五	二一・四
大陸方面人	一八・五	二六・〇
軍	七・三	一・一
銀行	三・三	三・七
保險	一・三	一・九
証券	六・四	八・四
教育	一・五	三・五

宗教

	法文	經商
眞宗一	四〇・七	四・一
五三・三	一四・一	一・一
一二・五	日蓮宗一	七・九
基督教一	二・五	神道一・三
天台宗一	一・七	儒教一・一
七・四	曹洞宗一	一・一
金光教〇・五	一・五	天理教、大念佛講が夫々〇・二

崇拜人物

	法文	經商
西鄕隆盛	一・九	一・五
楠木正成	一・六	四・五
大村益次郎	一・五	吉田松陰
一四・九	豐臣秀吉	一・一
一・一	東郷元帥	一・一
三・〇	ヒットラー	一・一
八野口英世	一・六	等で、殊
たところを拾ふと夫々〇・二		

母一〇・二で本學教授加藤講師の名も相當出てゐる

慶應新聞

	法文	經商
大朝	六七	七五
大毎	六・六	三六・五
時事	一・一	二・七
夕刊	〇・八	〇・七
讀賣	三・五	三・七
大阪	〇・四	〇・四
毎日	〇・四	〇・七
日刊	〇・四	〇・三
神戸	新聞	〇・三
名古屋新聞	〇・三	〇・三
帝國	新報	〇・三
東日	〇・三	〇・三

	法文	經商
文藝	春秋	四・八
日本	評論	四・〇
エコノミスト	一・三	五・七
同改造	五・〇	八・二
同中央公論	五・七	七〇・五
婦人公論	三四・三	二九・五
酒フロ飲ム	四七・六	三八・六
同欲マズ	五・〇	一・四
雲草	同人誌	一・四
同ロマズ	三・四	二・九
內職の有無		

內職を有するもの

	法文	經商
學部一・七	〇・五	
運動		
野球	一・一	〇・八
一九・五	散歩	一・八
水泳	八・〇	一・一
登山	九・〇	七・七
庭球	一・六	〇・一
柔道	五・九	〇・九
陸上競技	一・〇	〇・三
一・二	ラグビー	蹴球
保健法		
ラジオ體操	三・一	〇・五
散歩	一・三	六・九
劍道	一・四	二・二
弓道	一・二	冷水
摩擦	三・九	二・二
以下略		

娯樂、讀書

	法文	經商
映畫	一・二	〇・四
演劇	一・一	一・六
音樂	一・〇	一・〇
蓄音機	一・〇	〇・三
映畫	一・二	〇・三
演劇	一・五	〇・三
讀書	一・五	〇・五
散歩	一・八	〇・七
ハイキング	一・四	一・〇
囲碁	一・五	一・一
將棋	一・一	〇・〇
碁	一・八	〇・三
スポーツ	一・一	〇・三
釣	一・〇	〇・三
電氣	一・〇	〇・八
玉突	一・〇	〇・八
吟詩	一・〇	〇・二
園藝	一・〇	〇・二
犬	一・〇	〇・二

一千六百年記念に
校友會館建設
敷地選定・設計に近く着手

數門部の學友會幹部は二部數門部の學友會幹部と共に、去る二月二日、學部の學事の中心月幹部した諸君が天下に會合懇談を重ねて、校友會の實質的な發展を期すべく、五千、五年遂ふるに依り校友會館を持つてゐないのは非常に遺憾なことである。しかしながらこれについては未だ意見一致に達せず、遺憾ながら、學友會運動部の向上について、去る二月廿八日この問題について、運動部の向上について、去る二月廿八日この問題について、運動部の向上について、去る二月廿八日この問題について、

學藝

ニュース映畫の問題

今村太平

ニュース映畫を見て感ずることは、場面があまり短いといふことである。最近のシュペー號の自擁などでも、世界の目目を集めた事件の記錄としては短すぎるものである。

力つきたシュペー號が敵の重圍の中で黑煙を上げて擱座つてゐる。だんだん海中に沒して行くらしい。そのあとで新聞記者のこ〻ろ話してゐる艦長が寫つてゐる。白い眼を着た髮の毛の人で、帽子が馬鹿に大きく見えるくらひ小柄である。柔和で氣の弱さうな顏をしてゐる。英國の二隻を相手に戰闘してきた人とも思へない。顏にはあきらかに憔悴があらわれてゐるが、强ひて微笑でかくさうとしてゐる。なにか淋しさうな眼である。つぎの場面ではこの艦長の姿が通る。自決したのである。一人の尋ねぬ婦人が花を投げ與へる。

これらの畫面を見てゐると傷ましい印象が次第に強くなつてくる。しかしこの印象は悲觀的な感動とはなりきらずに消滅する。感動が短いと云ふばかりではなく、構成が觀つてゐるために、ニュース映畫では充分の人間的な感動が生じない。あたかもニュースには感動は少しも必要でないといふかの如く、つねにさうなのである。このやうな觀を打つ畫面のつぎに、それとたちまち感覺するやうな陽氣な場面、たとへばアメリカの有樂燈人達がワイワイスキーに興じてゐると言つたやうなものが、寫る。婦人のスキーや馬の觀走が世界ニュースの中に入れられ、觀衆に與へる印象があるかどうかと云ふことについてもなんの疑ひもないしい。だから、婦人スキーとシュペー號の目擊がほとんど同一長さの場面で撮られてゐても不思議ではないのである。

このことは、いかに今日のニュース映畫が世界についての客觀的な表現であるかを示す。觀衆は世界の夢幻にすぎない。世界の夢幻に參加するやうなニュースの觀賞、客觀的な世界に就ての正しい認識を失つてゐることは明瞭である。より客觀的な世界觀をいかにして表現するかといふことは少しも考へられてゐない。この無表現が同時に無感動である。いまのニュース映畫がこれほども多大な世界史的素材を扱ひながら、ほとんどなんらの人間的な感動を與へないのは、世界についての人間的な表現をもたないためである。人間的な表現はまた人間的な認識を意味する。したがつて、正しい意味での世界ニュースはいかなる場合にも一つの世界認識でなくてはならぬ。世界認識に參加するといふ點においては、ニュースも觀衆も同じである。だからこの根本點においてニュース映畫が分離する必要は少しもない。天から地から降りもしなければ湧きもしない。ニュースが總觀的で事務的になり、表現的になるほど、表現的になることによつて感動的になり、感動的になることによつて觀衆的になる。

ニュース映畫を再檢討した、「勝利凱旋行進」や「ポーランド戰線」が少しも感動的でないといふことは、それらの映畫の素材をなす一つ一つのニュース畫面になんらの觀衆的な表現も感覺が存在しなかつたといふことにもとづくらしい。もしも觀衆レンズの記錄が、表現的な人間の見、感じたものの記錄であり、それ故に記錄といふことは人間の認識行爲であるとしたらニュースが觀衆的になり得たといふ理由はない。たしかに、ニュースをニュースたらしめるいろいろの條件はある。突發的であるといふ條件、强力であるといふ條件、過去を飛躍して、極度に現在的であるといふ條件、あるいは突發する偶然の實在からの發生は、ニュース映畫の中に顯示されてゐる。我國では公開されないが、アメリカの「マーチ・オブ・タイムス」のごときは一種のニュース的な物語ではあるまいか。この作實は「上海」や「南京」にもあらはれてゐるが、これらは觀衆的であるにもかゝはらず、また充分時事的であるとは思はれない。

シュペー號の目擊やヒンデンブルグ號の墜落やビルバオの陷落やトレドのアルカザル城の陷落のニュースなどは、感動的な感覺を助けしめられたと思はれる事を、(3)天平勝寶六年の記錄に在官關係の語があること、(4)同七年三月に韓國として八幡宮から封戶四百戶水田一町を遷納せしめられてゐること、(5)天平勝寶元年藤原良房が謀反の時、「東大寺を遷り人民辛苦し代々の人等も亦是れ愛を生す」といつたこと等擧げてゐられる。しかし一面には當時の政は大化以來凡て全土王民とした統治權田の實施戶籍制の整理と、調ソ國庸の徵收、田畑に、調絹に、鐵を想ひ、此を繁る時、軍事建設のために、人間がいくら多くても多すぎると云ふことは

演劇精神に就て

新傷「大佛開眼」をみる

淺井堯雄

新劇が「大佛開眼」を如何なる論理的方向を以て二千六百年祭の感動的祭典に參加したか、先づ天平文化の觀賞的現實の如くに、「人佛開眼」の感動的現實を求めて來る所の歷史的事實を探つてみると

「田口榮一は當時の財政が極貧であつた事によつて(1)天正十五年に藤原氏に內論して食封三千戶を返收して國分寺に施入し、次大佛を造る料に供せられたと想はれる事(2)藤原仲麻呂を助けしめられたと想はれる事(3)天平勝寶六年の記錄に在官關係の語があること(4)同七年三月に韓國として八幡宮から封戶四百戶水田一町を遷納せしめられてゐること(5)天平勝寶元年藤原良房が謀反の時、「東大寺を遷り人民辛苦し代々の人等も亦是れ愛を生す」といつたこと等擧げてゐられる。しかし一面には當時の政は大化以來凡て全土王民とした統治權田の實施戶籍制の整理と、調ソ國庸の徵收、田畑に、調絹に、鐵を想ひ、此を繁る時、軍事建設のために、人間がいくら多くても多すぎると云ふことは

「鑑賞の眼は感覺から」これは感覺なる言葉を理論ではなく、生々しい現實である。感覺の感覺は喚ばれ、金鑑賞、木鑑ものその他の偶像は鑑賞せられ作品が、そのくり返れて居る今日、不足なのは物資だけではなく、人間も亦非常に不足を來たして居る。外は日本の二倍以上の占領地とその既獲に、藏ソ國の暗雲に、內は工場に、田畑に、國家に、徵を想ひ、此を繁る時、軍事建設のために、人間がいくら多くても多すぎると云ふことは

は―る

江里口春志

ない。とは云よものゝ生れたばかりの赤兒では一人前に役立つに二十年の歲月を待たねばならぬ。長期戰とは云ひ條、我等は何も長期戰を辯むものではない。如何なる長期戰をも敢て辯せざる一大覺悟を有して居ることを目他に表明してゐるのだ。

人間の不足、これを補ふ代用品は求めんとして求め得られるものである。天からも地からも降りもしなければ湧きもしない。こゝに人間の不足を補ふ道が一つある。即ち一人が二人前も三人前も働くことである。これによつてのみ、わが日本國民の人的資

源は二倍にも三倍にもなり得るのである。現に大陸に於いては、わが忠勇たる一人で二十人、三十人の敵兵を引受て立派な働きをなしてゐる。統營國民たる者、益々緊褌一番、精神力、肉體力の發揮に努むべきである。併し此をなすには、健康に恩まれた者にして初めて可能である。

感覺は使つてゐるものにあらず自らの努力精進によつて得られるのである。今日感覺感覺の要求された時代は他にない。各人各自の自覺的自覺によつて感覺感覺國の大道を邁進しよう。

☆　☆　☆

「うつりかはる」といふことは、この世のなかりひである。永久の常住は誰しも望むところであるが、これはいつになつても、達し得られない事實である。しかし、實體は、これが為にあるといふことによつて、人は樂な世は遠ざかれてゐるから、人世にはこの變化といひ感覺といふことが總觀的必要である。ところがこの宇宙の所謂「大變遷」である變化を、生物は人のことは勇ん角、自分及至少くとも自分を中心としてのものだけは常住でありたいと心から願ふのである。

人は春を喜ぶけれども、年をとるのを厭ふ。生れる者を喜ぶけれども、死のを限りなく悲む。來るのを樂しむけれども、去ることを嫌ふのである。元々は「なれる」といふことは會つたからであつて、死するといふことも生れたときに既に約束せられた運命である。

「變化」といふ言葉は、「變化」といふ言葉は、「變化」といふ言葉は、